

り申候所、御免可被成由貞享二年正月廿二日前田仕渡申渡之由。

一八 九十歳扶持被下候事

一、寛文十年より九十歳者に御扶持被下初之事。

一九 錢・丁銀遣初之事

一、錢壹貫文に付極印銀拾七匁三分直段取遣可仕旨之事。
一、御藏に上候錢之儀も可爲右之直段候。附り、錢屋手前より賣出候直段、極之外壹歩利合を以賣可申事。
右承應三年十月より御國一統被仰出候。

一、御國丁銀遣に罷成候は、寛文九年六月初日より之事。

一、萬治三年和守秤改、守隨に成候事。

一、寛文十一年六月四日より權現堂之下新算用場に罷出候事。

二〇 上方船初而御國に廻申事

一、正保四年上方船初而、木屋故助市才覺に而御國に廻し

申候。大坂船裁許木屋助市せがれ並に升屋市郎兵衛。右船裁許之者には御合力無之。但、船頭方より送取申候。
一、貳拾人扶持

大坂御藏宿

備前屋了牧

同人せがれ

善左衛門

木屋 助市

一、御合力米拾五石
右兩人、御登米壹石に付四分充之藏貨銀被下候事。

二一 廻國上使之事

一、寛文十年

上使廻國

徳山五兵衛殿

葉山左衛門殿

林 丹波守殿

一、萬治二年

上使。但廻國無之。若松越

内藤權五郎殿

に越中五ヶ山下梨子迄御越

石川岸右衛門殿

有之。越後屋敷に御入。

一、同 三年

上使越後屋敷に御入

能勢佐左衛門殿

渡邊 筑 後殿

一、寛文七年

五月晦日泊迄参着。七月十日

甲斐庄喜右衛門殿

二日御國仕廻。

鳥井權之助殿

神保四郎右衛門殿

一、延寶十年

廻國上使六月

大關助右衛門殿

中根左兵衛殿

内藤十之丞殿

一、寶永七年

廻國上使四月

嶋田藤十郎殿

高井作左衛門殿

寛 助兵衛殿

一、享保二年

廻國上使四月

鳥井權之助殿

一、延享三年

廻國上使四月参着

大久保江七兵衛殿

山岡五郎作殿

筑紫宇兵衛殿

一、寶曆五年

御國目付。四月廿一日金澤

松平 頼母殿

御着、御在留中御領國所々

大河内 善兵衛殿

御巡見有之。十月初日御發

足、小松筋御巡見、直に東

海道より御歸。

二二 改作奉行存寄上申之事

御郡中之儀に付存寄候通可申上旨被仰渡候付而申上候。
一、御郡中改作之儀、諸事十村共百姓をかいはう仕、せこを入、御奉公よく仕候得ば、大形之所は百姓成立申候。惣而之儀、十村を目あかしに不仕候得ば罷成候。然共人々